



2011.1.1

vol.52

発行元：西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://www.n-watanabe-hosp.jp/>

あけましておめでとうございます



社会医療法人 渡邊高記念会
理事長 佐々木 恭子

明るい話題の少なかった昨年、今年こそはと願わずにはられません。

「夢」、「未来」、「希望」、新年を迎えるに相応しい言葉は医療人である私共にとっては常に忘れてはならない言葉です。医療、介護の原点は生きる希望の創出であり、未来へ向かっての生き甲斐、夢の創出であろうと思います。昨年よりNHKで放映中の「坂の上の雲」は、貧しい国力の中、揺るぎのない使命感を持ち、希望を失わず、この国の近代化に邁進した先人の努力を描いています。今再びの司馬遼太郎

ブームは、この国が経済繁栄の頂点を極めていた原作執筆当時とは違う感動と共感をもたらしているように感じます。世界中が体験したことのない超高齢化社会に突入したこの国にあって、医療崩壊をくい止めるのは、私共と皆様との協力、それに加える私共医療人の使命感、そして情熱かと思えます。

『求められる医療の実践』を目標に今年もまた新しい歩みを開始しました。御協力ご支援の程よろしくお願い致します。



社会医療法人 渡邊高記念会
名誉理事長 渡邊 高



昨年は波瀾万丈の一年でした。2年に一度の医療保険制度改定の年でもあり、医療と介護がどうなるのか不安なことばかりで、相談をどこでしたらよいのかなど混迷の日々でした。むろかわNewsで確かな情報をお伝え出来なかったことをお詫び致します。未来の見えぬ時代です。

一昨年、病院開設45周年の席で、歩んできた途と未来像をご披露させていただきましたが、歯に物がはさまった歯切れの悪いもので、明確な方向をお伝え出来ませんでした。昨年医師不足に伴うの僻地の医療のあり方の答申があり、総合医療の必要が提言されました。医師不足は僻地だけの事ではなく、医療の専門性が言われる中で、私共は先進医療機器の導入がマンパワー

を補うと考え、医療の充実を図っていくために先進医療機器の導入を行っています。しかし、言うは易く、行うことの難しさを感じた年でもあり、様々な問題を解決しながら前進し本年を迎えました。

今年は山積みする問題をそれぞれの分野でプロ意識を持って全力を尽くし、働いてよかったと思う年にしたいと思います。また、医事課の横に医療相談室を開設したいと思っています。わからないこと、別の人の意見が聞きたいこと、これからのことを親身になって対応させていただきますので、是非ご利用下さい。

本年もよろしくお願い致します。
皆で頑張りましょう。



あけましておめでとうございます

西宮渡辺病院 院長 蓮池 康德



明けましておめでとうございます。私が西宮の地に再び参りまして、1年が過ぎました。外科をこの地にということで、一年間で120例近くの手術をしてがんばって参りました。外科は守備範囲が広く、一人の力ではどうにもなりません。患者さんが来院された時より事務の人や外来の看護師さん、検査、放射線科の技師さんが一体となってチェックや手術の段取りをしてくれ、病棟の看護師さん、薬剤部、栄養、リハビリの方々も手術を含め、きめ細やかにサポートしていただいだけ、非常に感謝しております。手術やIVRについては、阪大、兵庫医大から応援が駆けつけてくれ、質を落とさず、地域医療に貢献できる基盤ができたと思っております。また、癌については外来化学療法室も設置し、フル活用しております。加え、本院の最大の特徴であります6人の整形外科の先生によります幅広い整形外科疾患の治療も今後ますます地域に根付いていくと確信しております。

本年も新生西宮渡辺病院をよろしく御願いたします。



西宮渡辺病院

副院長 佐々木 健陽



あけましておめでとうございます。

平成21年4月に西宮人工関節センター開設以来、着実に手術患者様が増加し、退院後も手術患者様に「日常生活が痛みなく生活できる」という感謝の言葉をいただき、非常に喜んでおります。また、大阪市立大学医学部整形外科名誉教授高岡医師による骨粗鬆外来受診患者様にも「当院で著名な先生の的確な診断治療を受けることができた」という喜びの声をいただき、嬉しく思っております。医療は日進月歩進んでいます。本年は、地域の皆様や医療関係者の方々に、確実に心ある最新の整形外科を提供できる医療を目指します。本年もどうぞよろしく御願いたします。



西宮渡辺病院

副院長 植田 昌平



あけましておめでとうございます。

昨年いろいろな出来事がありましたが、皆様のおかげで無事に新年を迎えることができました。ここ数年来、長寿時代の到来で80歳、90歳台の入院患者さんが多くなり100歳台の方も珍しくなってきましたが、患者さんにとっての最善の治療とは何だろうかと思悩むことが最近増えてきました。今後もさらに進む高齢化に対して、医療界だけでなく社会全体で考えるべき大きな課題だろうと思っております。

さて今年、病院機能評価Ver.6受審の最後の関門である訪問審査が2月末に予定されています。病院機能改善に向けた病院全体の意欲を持った取り組みが審査・評価されますので、職員皆様一人一人のご理解とご協力をよろしく御願申し上げます。

西宮人工関節センター

センター長 福岡 慎一



昨年は人工関節手術が100例を超

えました。特に大きなトラブルもなく術後成績も良好に経過することができましたのも、偏に皆様のご協力のおかげだと感謝しております。ありがとうございました。

本年はさらに、医者はもちろん、看護師、リハビリテーションなどのパラメディカルが一体となり、より多くの患者をより快適に治療することを目指します。本年もどうぞよろしく御願いたします。

西宮渡辺病院

副看護部長 小島 直子



明けましておめでとうございます。

西宮渡辺病院の副看護部長に平成22年11月1日から就任いたしました。戸惑いも多々ありますが、「患者様に寄り添う医療」・「患者様に優しい医療を提供する」という、名誉理事長・佐々木理事長の意思を受け、病院長を先頭にさまざまな職種と連携・協働しながら改革をしたいと思っております。その第一歩として、平成23年2月の病院機能評価Ver.6取得に邁進していきたいと思っております。

どうぞ宜しく御願いたします。



各部署より 新年のご挨拶を申し上げます



西宮渡辺心臓・血管センター 院長 吉川 純一



明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、本センターをさらに発展させることを、しっかりと心に刻み込んでおります。

もちろん、センターの発展そのものは、チーム医療をしっかりと行い、職員がお互いの力を合わせて前進することしかありません。お互いの力を結集して、患者さんに愛され、信頼されるセンターに育て、「関西に西宮渡辺心臓血管センターあり」と人々に言われるように早くしたいと思っております。

どうか今年もよろしくお願い致します。



西宮渡辺心臓・血管センター

センター長 民田 浩一



新年おめでとうございます。

昨年7月に大塚先生が、10月に藤原先生が新たに赴任され、内科常勤3人体制となりました。また、ハイブリッド手術室が新たに稼働し、本年には12床の増床となります。これからの時代を見据え外科の吉田先生とともに内科外科垣根のない循環器診療チームを形成し患者様中心の医療を展開していきたいと思っております。今後も引き続き地域で最も信頼される循環器専門病院となることを目指してセンター全員で努力する所存です。今後とも宜しく願いいたします。



西宮渡辺心臓・血管センター

心臓血管外科部長 吉田 和則



当センターで心臓血管外科部門を開設し、早や2年半となりました。正にゼロからのスタートで、山あり谷ありの2年半でした。

日々の仕事や生活に追われる中で、常に高いmotivationを維持しながら、クオリティーの高い治療を提供できるよう研鑽し続ける事は、口で言う程、簡単な事ではありませんが、皆さんには、心から誇れるような病院作りをして頂きたいと思っております。



ハートケア西宮渡辺

副施設長 平松 二美



昨年は、老健本来の目的である自立支援、在宅復帰に向けての取り組みに力をいれ、たくさんの方々に自宅に戻る喜びを実感していただきました。

また、在宅生活を継続していく上で身体機能の維持向上の要となる、通所部門も日曜日の営業を開始し、皆様のニーズに応じてまいりました。今年も皆様の在宅生活をサポートする老健のあり方を追求していきたいと思っております。



疾病予防運動施設 健康塾

主任 石田 仁



あけましておめでとうございます。

本年も医療機関併設の強みを活かし、『安心・安全・効果』を目指した運動指導を実践し、一次予防により地域住民の健康づくりを担い、維持期心臓リハビリの推進(診療との連携強化)、また医療・介護のサービスに満足されていない方々の受け皿として、より地域に愛される信頼された施設づくりに努めてまいります。

また、『ヘルスケアレストラン』や『学んで治そう！健康セミナー』の開催にも力を注いでおりますので、是非ご参加ください。





本年もどうぞよろしくお願ひ致します



グループホームむろかわ

看護師 小川 真理代



明けましておめでとうございます
今年8年目を迎えたグループホームでは、地域の方々により強く関心と御支援が戴けるようボランティア支援の受入れを始めました。

「誰かの役に立てる。喜んでもらえて嬉しい」などの声。様々な人の目と手、優しさが反映されています。戦後の時代を乗り越えてこられた高齢者の方々が「最高に幸せな日常を送れるホーム」になれるよう邁進して参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



訪問看護むろかわ

管理者 吉川 光江



居宅介護むろかわ

管理者 大門 栄子

少子、高齢化の波に行政の不作為が病める高齢者の不安をつのらせている昨今、訪問看護・居宅むろかわでは、住み慣れた「自分の家」で暮らしたいという利用者様の希望を叶えるためにどうすればいいかを最優先に考えて取り組んでいます。

地域に根差した事業所として、また地域連携室の後方支援部門としても各専門職種と連携を図り、利用者様やご家族の気持ちに寄り添い、笑顔を取り戻していただけるよう今年も邁進いたします。



社会医療法人 渡邊高記念会 理念

『敬天愛人』 ～心通い合う医療の提供～

当法人は誠心誠意医療に携わり、信頼でき安心できる病院として地域の人々の健康と福祉に貢献します。

職員は生命の尊重と人間愛とを基本とし、常に奉仕の精神を忘れず、医療の質の確保と向上に努めます。

社会医療法人 渡邊高記念会 患者権利章典

～患者さまの権利について～

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 診療に関して十分な説明、情報を受ける権利
3. 治療方法などを自分の意志で選択する権利
4. 自己の診療記録の開示を求める権利
5. 診療の過程で得られた個人情報を守られ、私生活が守られる権利
6. 研究途上の医療などで、目的や危険性などの情報提供を受けて、医療を受けるか否かを決めることができる権利と、不利益を受けることなく医療を拒否する権利
7. 患者さまの人権、価値観を尊重し、医療提供者との協力を得て、良質な医療を実現し、医療を受ける権利

ロビーコンサート開催報告

去る2010年12月下旬、西宮渡辺病院1階待合ロビーにて第32回ロビーコンサートを開催いたしました。

今回も西宮聖愛協会の聖歌隊をお招きし、クリスマス賛歌を中心にコーラスや大正琴などを約1時間に亘ってご披露いただきました。患者さまやグループホーム入所者さまなどおおよそ40名の方が鑑賞していただき、聖歌隊と一緒に『きよしこの夜』や『もろびとこぞりて』を唄うなど、ロビーはクリスマスモードに包まれました。



年頭所感

事務部長 山岡 泉

新年おめでとうございます。

今年3月卒業予定の大学卒業生の就職内定率が過去最低の57%程度と聞いております。このような厳しい経済状況ではありますが、私どもの病院は『地域の皆様のための医療機関』としての重責を果たすべく、今年も努力を続けて参ります。

昨年4月に兵庫県初の社会医療法人の認可をいただき、12月には7対1の看護基準を取得いたしました。

この社会医療法人の名に恥じないよう、今後もより良い医療サービスが円滑に患者さまに提供でき、地域医療に貢献できますよう、職員一同努力してまいります。

また、職員が生きがいを持って働ける職場環境をつくり、病院内の各部門(診療・看護・メディカル等)がスムーズな連携がとれるよう、本年も一層努力を重ね、がんばってまいりたいと思っております。

ご意見箱に対する対応

よりよい患者様の環境を考える会

明けましておめでとうございます。『よりよい患者様の環境を考える会』には、院内に設置している投書箱を通して様々なご意見が寄せられます。昨年は約150件の投書を頂戴しており、ご意見の他お褒め頂く内容も多く頂戴しております。頂いたご意見を幾つかご紹介します。

1. (外来用)『1階リハビリテーション室隣のトイレが臭い・会計前のところもいつもトイレの臭いがきつい』とご意見を頂戴し、午前の定期点検の回数を増やすよう清掃業者に依頼しました。
2. 『最寄りのバス停中村の時刻表を表示又はコピーして欲しい』とご意見を頂戴し、待合ロビーにバス時刻表お知らせの案内板を掲示し、受付にてコピーを配布しています。
3. 『足・腰の悪い人たちのために入り口の端の方へ古い椅子でも置いて頂いたら嬉しく思います。(車待ち)』とご意見を頂戴しました。配慮が足りず申し訳ございません。外にも正面玄関付近にも椅子を置くスペースがない為、タクシーを呼ぶ電話を置いている場所と入り口付近の椅子に「ロビーの椅子でお待ち下さい。タクシー乗務員が呼びに参ります。」と案内を貼り出し、ロビーでお待ち頂くことになりました。

職員からの意見もご紹介します。

4. 『以前から食堂・デイルームが殺風景だという意見があるので季節感のある絵などを掲示してはどうか』との意見に、各病棟の食堂・デイルームに3枚ずつ絵もしくは写真を飾ることになりました。

以上は一部ですが、私たちはご意見を通して患者様のニーズに応えることを目標にし、貴重なご意見を各部署へフィードバック・啓発することでよりよい患者様の環境を作っていきたいと考えております。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

奇跡の生還。其の五（後編）

西宮渡辺病院 院長 蓮池 康德

5年前奇跡の生還を果たした肝臓がんの彼は、その空白を語るのではなく、唐突に、先生また肝臓の別のところにできたんだけど、今回も誰も切ってくれる人がいないんで、先生切ってくださいと言いだした。

なぜ、ここがわかったのかと聞くと、僕が県西で教えていた消化器内科のT先生にたまたまエコーをしてもらったときに僕の話になり、それなら、僕のところに聞きにいったら、と言ってくれたそうなのである。

今回は、場所はそう危なくない外側区域、しかも、そう大きくもない。静脈瘤は相変わらず存在し、巨大な脾臓もあるが、肝機能からはノーとはいえない状態であった。しかし、肝臓の形状や脾機能の亢進の問題、食道静脈瘤の問題など、総合すると肝臓が悪すぎて切れないということになる。

自分なりの評価では手術可能と思われるが、起りうる合併症に対して今の小さな病院では対応は困難であろう。この前やっと、普通の肝切除の第二例目をしたところである。苦肉の策として、僕の後輩で一番腕のよいT先生に頼むことにした。しかし、彼もこの症例をこの前手術したことについてははしない方がよいと言った一人である。でも、設備からも病院の実力からも彼のところでもらえるなら、ベターだと思った。その旨、患者さんに正直に伝え、向こうがどうしてもダメなら、

僕が手術をできる病院をさがすことを約束していかせた。

こころよく引き受けてくれ、すぐに手術となる。後輩は、肝臓のことも考え、摘脾までしてくれ、元気になって僕のところに現われた。後日談ですが、患者さんが言った言葉。「この前の手術では術前、脇の下から冷や汗がでたが、今回はでなかったと。」良い優れた後輩をもったものである。感謝！「今回も6カ所の病院を回りましたが全部断られました。さる大学病院では、こんな状態だと、なにをしても1年後はだめになるだろうし、10年持った人はいないよ。それでもしますかとまで、言われたんですよ。」

でも、本人は10年頑張ってみますよとってくれた。彼は、もうすでに5年生きていて、今回の術後PETCTをしたところ、どこにも遺残はなかったそうである。少なくとも後3年は大丈夫だろう。ぜひ、頑張ってください。後輩に託しますよとあって、彼と握手をした。

僕は其の時々で持てる最大限の可能性をいつも考える。それが、その人にとっても一番良い結果になると思っているからである。誰も、自分がかわいいし、見栄も張りたい。いろんな、心の動揺を誘う因子があると思うがひたすら患者さんのためを思えば、答えは自ずと見えてくるのである。

学んぶろ健康セミナー

開催予告

日時：平成23年2月5日（土）14：00～

場所：西宮市民会館1F 大会議室

内容（予定）：①植田昌平医師による講演

脳卒中にならないために～予防十か条～

②健康体操

③蓮池康德医師による講演

“がん”のおはなし～食品編～

定員：100名（先着予約制）

参加無料

是非ご参加ください！

【予約・問い合わせ】0798-36-1166 健康塾 石田

循環器フォーラム 開催報告

昨年11月、ノボテル甲子園にて第3回循環器地域連携医療フォーラムを開催致しました。近医の開業医先生方など76名が参加されました。

第1部ケースカンファランスに当センター心臓血管外科部長の吉田和則医師より『当センターにおける大動脈弁閉鎖症の手術検討』を発表させて頂きました。第2部は神戸大学大学院医学研究科心臓血管外科大北裕教授をお招きし、『大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療』についてご講演頂きました。

また、昨年10月当センターに導入されたハイブリッド型手術室を利用する最新の手術・治療方法も検討・発表されました。

フォーラム事務局